

冬の九十九里

砂浜に影が伸びて
寄せては返す激しい波が
静けさの中胸に響く
確かな命感じるひととき

両手広げて薄紅浴びて
自分の長い影を作る
その後ろに遠くの雲
ゆっくりと朱色に染まる

冬の夕日海の中に
そっと触れる九十九里の
浜に静かな金色の風
その風だけはどこかあたたかく感じる

波は薄紅をまとして
寄せては返すとまることなく
静けさの中胸に響く
永遠の音感じるひととき

今日の夜はいつもと違う
綺麗な星空の下
胸の奥の凍ったもの
ゆっくり溶かしていく

人もまばらな海岸線を
そっと優しく九十九里の
浜に足跡つけるたびに
心の奥のざわめきをさらってゆく

冬の夕日海の中に
そっと触れる九十九里の
浜に静かな金色の風
その風だけはどこかあたたかく感じる